

第1章 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

1.1 名称

スズキ株式会社

1.2 代表者の氏名

代表取締役 鈴木 修

1.3 所在地

静岡県浜松市南区高塚町300番地

第2章 対象事業の名称

(仮称) 青谷コース新設事業

第3章 対象事業の目的及び内容

3.1 対象事業の目的

二輪車開発に伴う性能試験のためのテストコース建設

3.2 対象事業の内容

3.2.1 対象事業の種類

工業団地の造成

3.2.2 対象事業の規模

対象事業実施区域（以下、「事業予定地」という。）の面積： 53.52ha

3.2.3 事業予定地の位置

静岡県浜松市天竜区青谷字請留山 2459 番 104 他

事業予定地の位置を、図 3.2.1～図 3.2.3 に示す。

3.2.4 対象事業の工程

対象事業の工程を表 3.2.1 に示す。

工事着手は平成 31 年を、供用開始は平成 37 年を予定している。

表 3.2.1 対象事業の工程

| 種 別 | 平成 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | |
|---------------------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 27年 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 |
| 測量・調査 (環境影響評価含む) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 許認可申請 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工 事 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 供 用 | | | | | | | | | | | | | | | | |

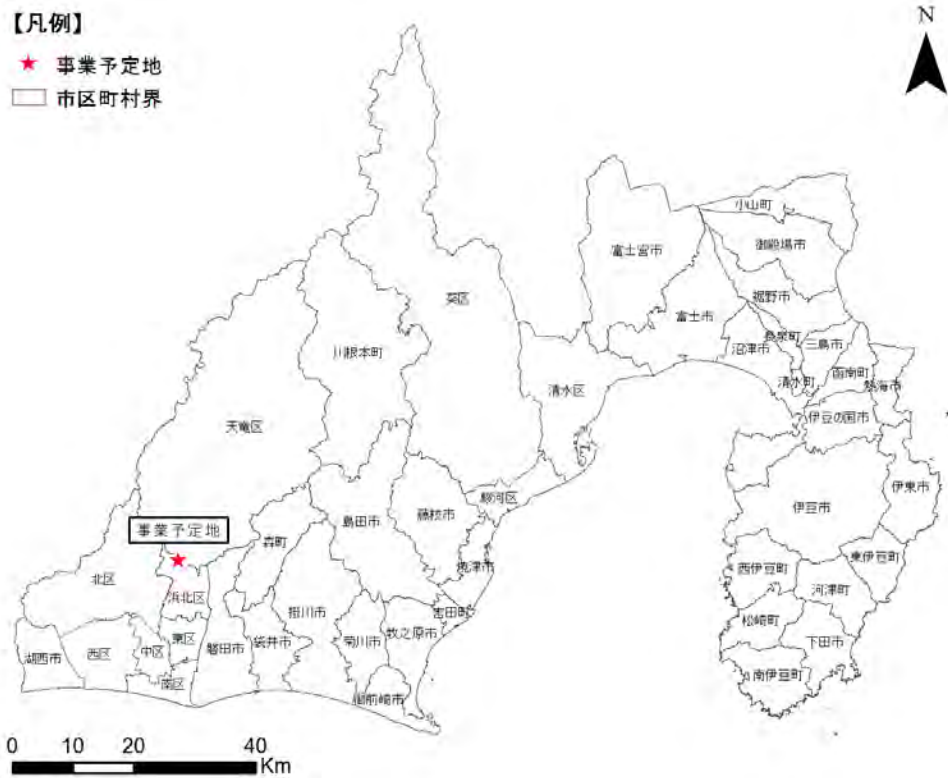


図 3.2.1 事業予定地の概略位置

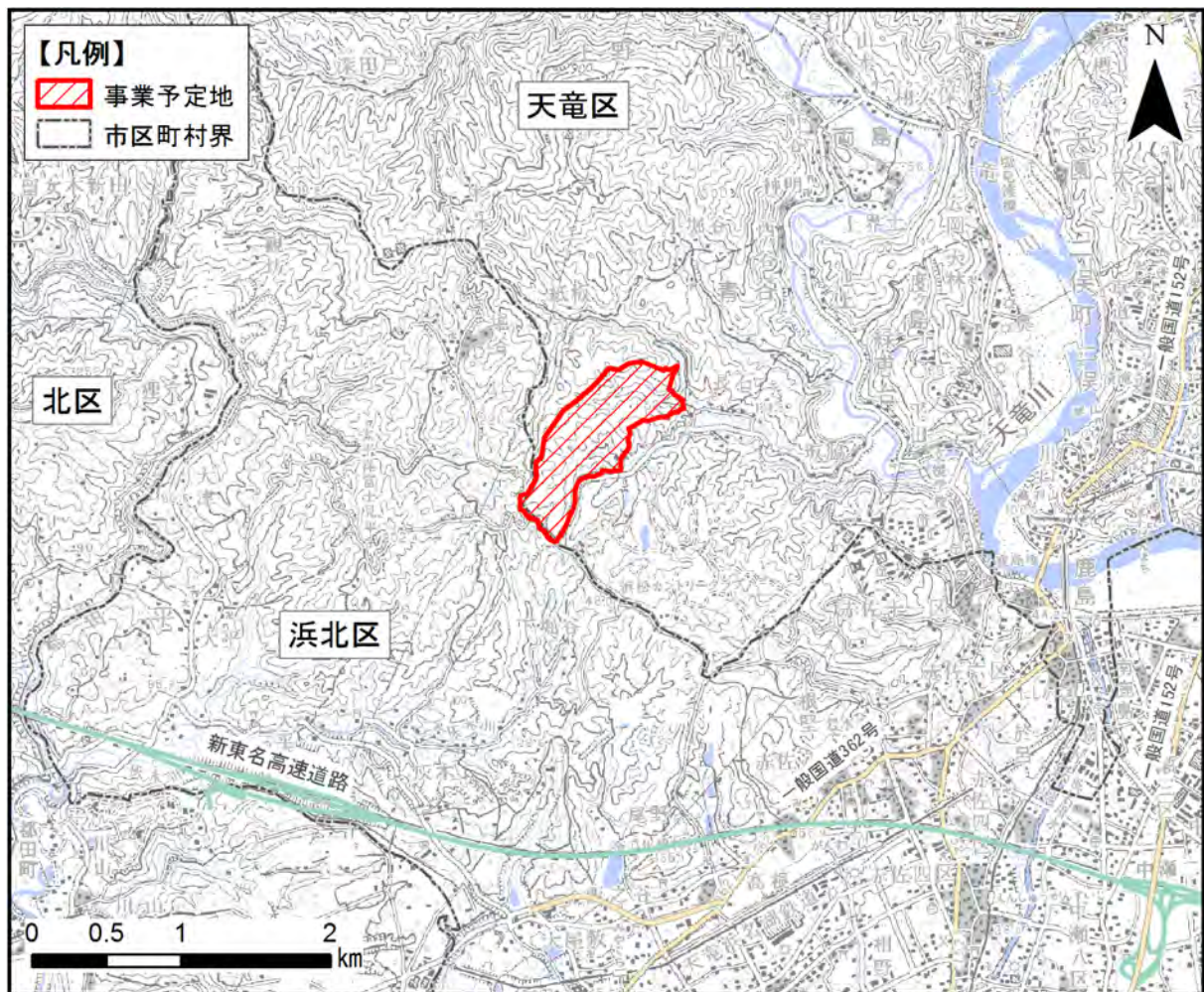


図 3.2.2 事業予定地の位置

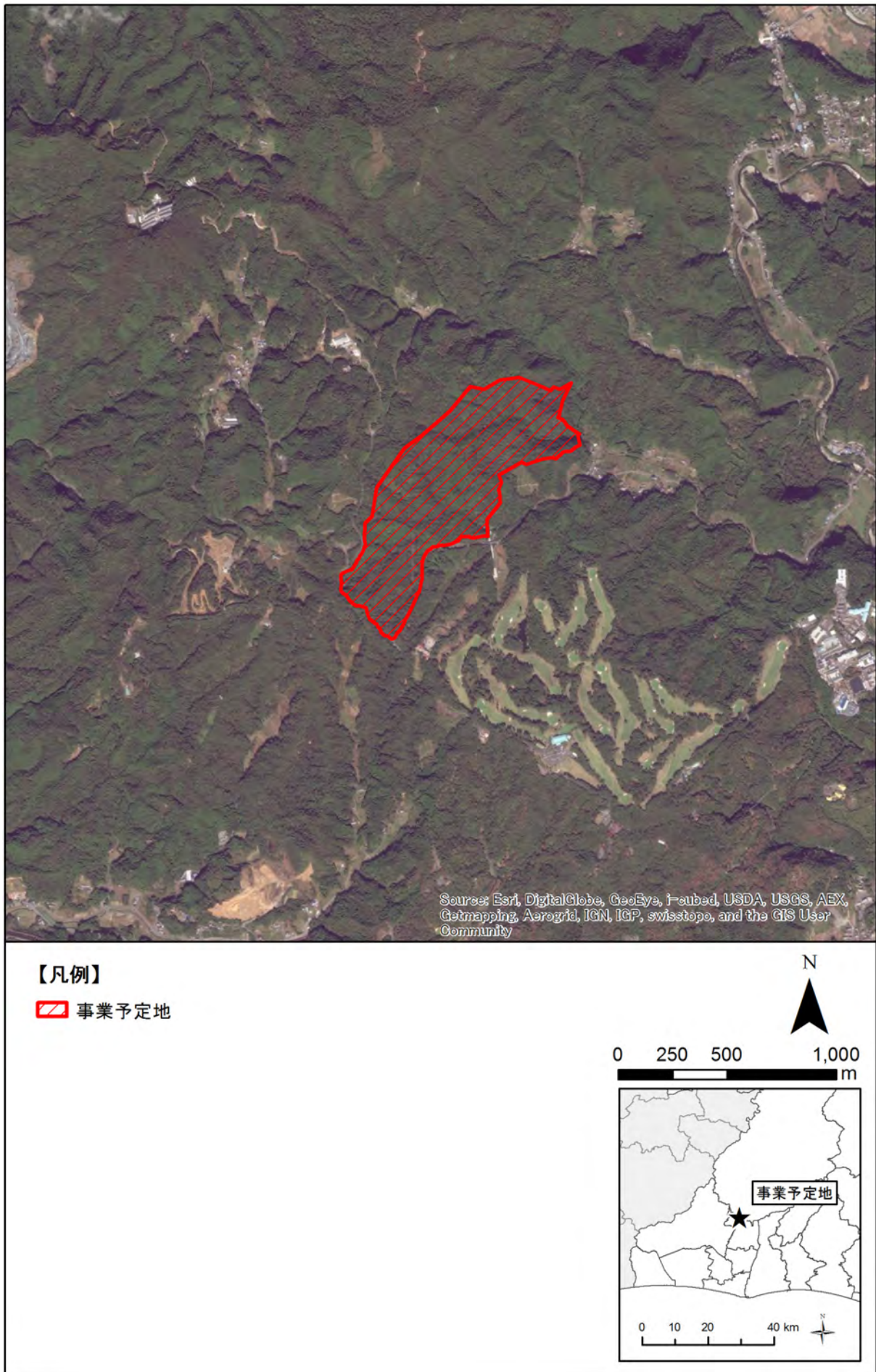


図 3. 2. 3 事業予定地周辺の空中写真

3.2.5 土地利用に関する事項

(1) 計画面積

対象事業の計画面積を表 3.2.2 に示す。

現況の地目は、全域 (53.52ha) が山林・原野であり、そのうち、改変面積は 36.84ha の計画である。

表 3.2.2 計画面積

| 項 目 | 面 積 |
|---------|----------------|
| 全 体 面 積 | 53.52 ha |
| 現況地目別面積 | 山林・原野：53.52 ha |
| 自然地改変面積 | 36.84 ha |

(2) 土地利用計画

施設別用途面積を表 3.2.3 に示す。

事業予定地 53.52ha のうち、テストコース及び建築区域として 21.63ha (40.41%)、防災調整池として 2.35ha (4.39%)、環境緑地・斜面緑地 (平場緑地、切土法面、盛土法面) として 12.86ha (24.02%) を利用し、自然緑地として 16.68ha (31.17%) を残置する計画である。

表 3.2.3 施設別用途面積

| 用 途 | | 面 積 (ha) | 割合 (%) |
|-------------------|-------------|----------|-------------------|
| 自然 地 改 変 | テストコース・建築区域 | 21.63 | 40.41 |
| | 防災調整池 | 2.35 | 4.39 |
| | 環境緑地 (平場緑地) | 1.87 | 3.49 |
| | 斜面緑地 (切土法面) | 6.38 | 11.92 |
| | 斜面緑地 (盛土法面) | 4.61 | 8.61 |
| 自然緑地 (残置森林) | | 16.68 | 31.17 |
| 合 計 | | 53.52 | 100.00 (99.99) |

注) 割合は四捨五入しているため、各項目の計と合計が一致しない場合がある。

(3) 施設計画

主な施設の概要を表 3.2.4 に、施設計画を図 3.2.4 に示す。

テストコースは、延長距離の最も長いハイウェイコースを北東—南西方向に配し、周辺にラフロード、制動試験路等の各テストコースを配置する。

また、付帯施設として、整備室兼事務所、ガソリンスタンド及び従業員駐車場を整備する。屋外の照明設備としては、敷地内の歩道と従業員駐車場にタイマー式の街灯を設置する。

表 3.2.4 主な施設の概要

| 施設名 | | 施設の概要 |
|--------|-----------|-------------------------------|
| テストコース | ハイウェイコース | 延長約 2,800 m |
| | ラフロード | 延長約 1,500 m |
| | 制動試験路 | 延長約 886 m |
| | 低 μ 路 | 延長約 590 m |
| 建築物 | 整備室兼事務所 | 約 1,540 m ² |
| | ガソリンスタンド | 面積 44 m ² 、貯蔵量 6kL |
| その他 | 従業員駐車場 | タイマー式照明設備 |

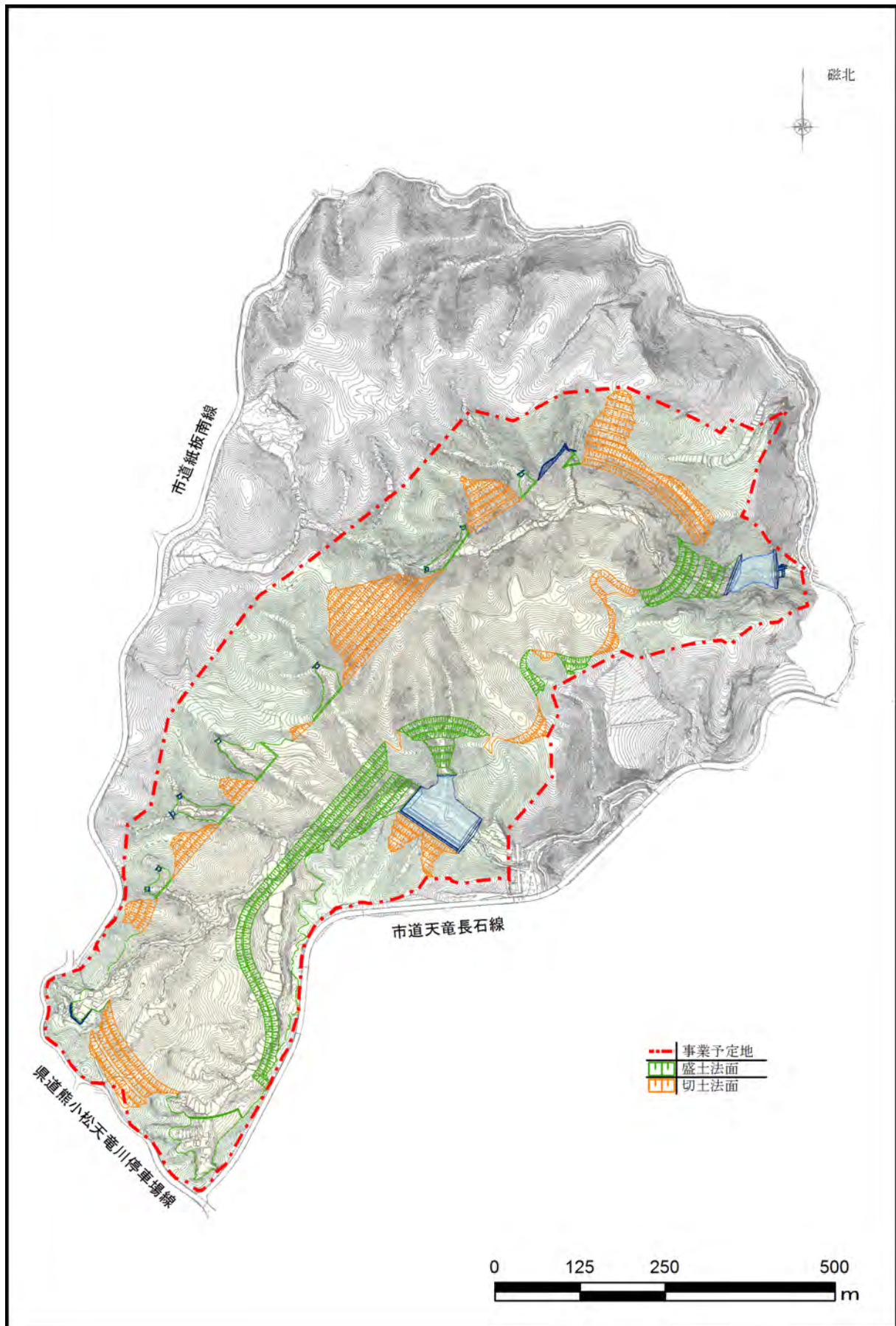


図 3.2.4 施設計画

(4) 造成計画

造成計画の概要を表 3.2.5 に示す。

本事業では、造成工事に伴う切土と盛土の量が概ね同量となるよう調整し、土石の搬入及び残土の搬出は行わないことを基本とする。

造成工事に伴う切土量及び盛土量はともに 200 万 m³とし、切土面積は 17.03ha、盛土面積は 19.81ha とする。

表 3.2.5 造成計画

| 項 目 | | 概 要 |
|------|-----|--------------------------|
| 伐採面積 | | 36.84 ha |
| 造成面積 | 切 土 | 17.03 ha |
| | 盛 土 | 19.81 ha |
| 土量 | 切 土 | 2,000,000 m ³ |
| | 盛 土 | 2,000,000 m ³ |
| 土石搬入 | | なし |
| 残土処理 | | 場内処理を基本とする。 |

3.2.6 施設の供用に関する事項

(1) 計画人口

従業員は、常時 50～60 人とする計画である。

(2) 施設稼働計画

対象施設の稼働計画を表 3.2.6 に示す。

テストコースでの走行試験は、原則として、月曜日から金曜日までの平日 9：00～17：00(夏季 8：00～17：00) に行う。なお、週 3 日程度 19：30 まで、夜間走行試験を行う。

その他の施設では、原則として稼働時間を 8：45～17：30 とするが、週 3 日程度 20：00 まで稼働する。

表 3.2.6 稼働計画

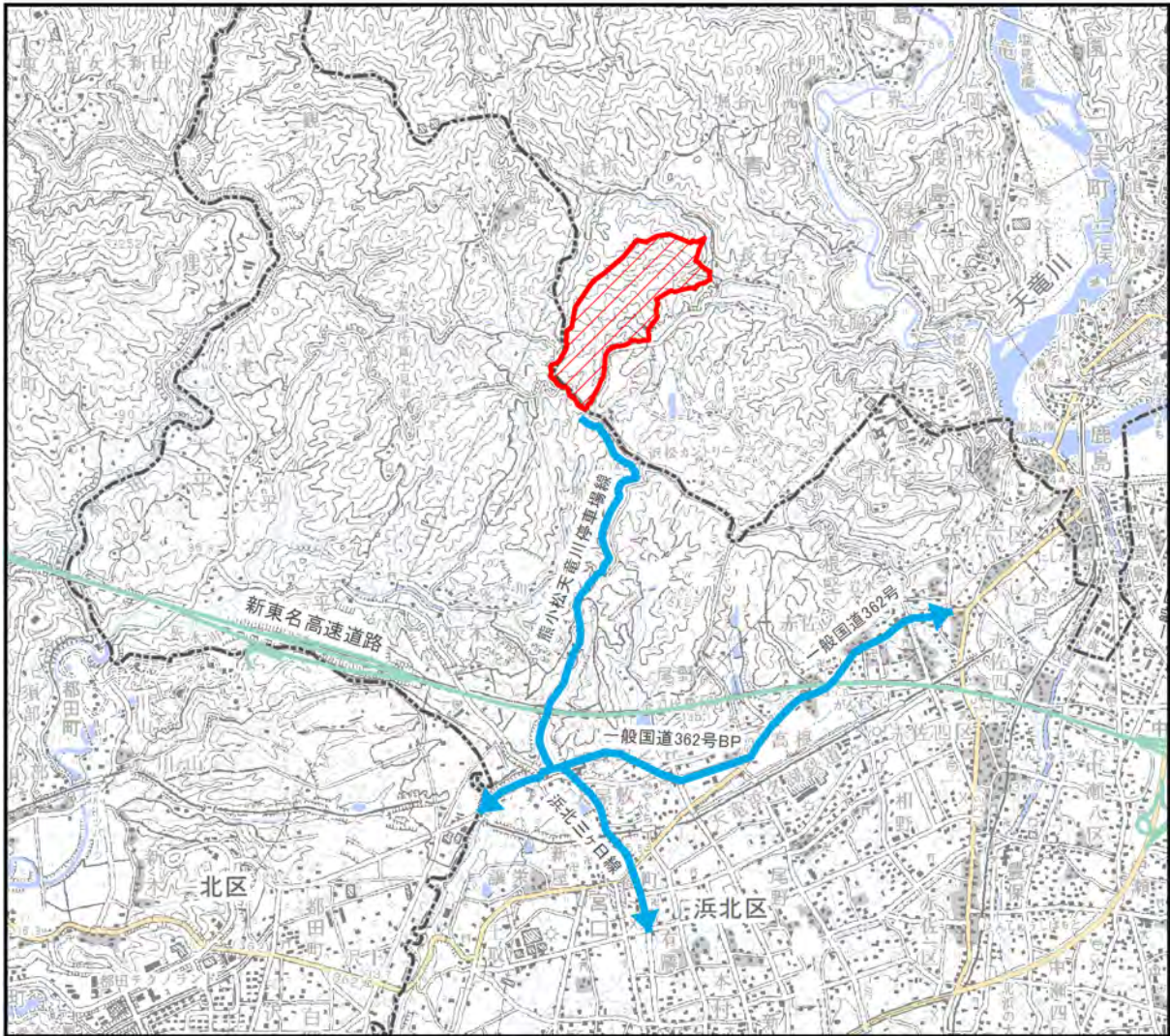
| 施設 | 内 容 | |
|--------|------|---|
| テストコース | 走行日 | 月～金曜日 (年末年始を除く) |
| | 走行時間 | 原則として 9：00 ～ 17：00 (夏季のみ 8：00 ～ 17：00) なお、週 3 日程度は 19：30 まで夜間走行を行う。 |
| | 走行距離 | 900 km/日 |
| | 走行台数 | 30 台/日 |
| その他の施設 | 稼働日 | 月～金曜日 (年末年始を除く) |
| | 稼働時間 | 原則として 8：45 ～ 17：30 なお、週 3 日程度は 20：00 まで夜間稼働する。 |

(3) 道路計画


施設供用時の主要な車両通行ルートを図 3.2.5 に示す。


施設供用時には、スズキ(株)二輪技術センター(浜松市都田地区に建設中)との間で関係車両約 30 台/日(普通車のみ)の往来を想定しているほか、従業員の通勤車両が最大 60 台/日発生する。

これらの車両は、事業予定地から県道熊小松天竜川停車場線を経由して一般国道 362 号バイパスに至り、東方へは一般国道 362 号バイパス及び一般国道 362 号、南方へは主要地方道浜北三ヶ日線、西方へは今後建設される予定の一般国道 362 号バイパスを使用する計画である。



【凡例】

 事業予定地

 主要な車両通行ルート(施設供用時)

N



0 500 1,000 2,000
m



図 3.2.5 施設供用時の主要な車両通行ルート

(4) 給水計画

給水計画を表 3.2.7 に示す。

本事業では、従業員 50～60 人の生活用水として 6 m³/日を利用する。

また、試験路への散水に 1,556 m³/月を使用する。

給水源としては、上水道整備または地下水を予定している。

表 3.2.7 給水計画

| 用途 | 給水量 |
|------|-------------------------|
| 生活用水 | 6 m ³ /日 |
| 散水施設 | 1,556 m ³ /月 |

(5) 排水計画

排水処理計画を表 3.2.8 に示す。

対象事業に伴う排水として、従業員 50～60 人の生活排水が発生する。生活排水は合併処理浄化槽で処理し、公共用水域に放流する。

なお、試験路に散水する水は、調整池を経由して公共用水域に排水する。

表 3.2.8 排水処理計画

| 項目 | 内容 |
|-------------------|---------------------|
| 排水量 | 6 m ³ /日 |
| 排水の種類 | 生活排水 |
| 処理方法 | 合併処理浄化槽 |
| 排水水質 | 浄化槽の基準による |
| 放流河川 (河川法適用河川) | 一級河川 長石川 |

(6) 雨水排水計画

雨水は、事業予定地の側溝から調整池を経由して普通河川長石沢及び普通河川長石川（いずれも一級河川長石川の上流）に排出する。

調整池の概要を表 3.2.9 に、調整池の位置を図 3.2.6 に、周辺河川の位置を図 3.2.7 に示す。

調整池は、事業予定地内の 2 か所に設置する。

表 3.2.9 調整池の概要

| 調整池 | 流入面積 | 放流先 |
|-------|-----------|----------|
| 1号調整池 | 約 40.4 ha | 普通河川 長石沢 |
| 2号調整池 | 約 31.8 ha | 普通河川 長石川 |

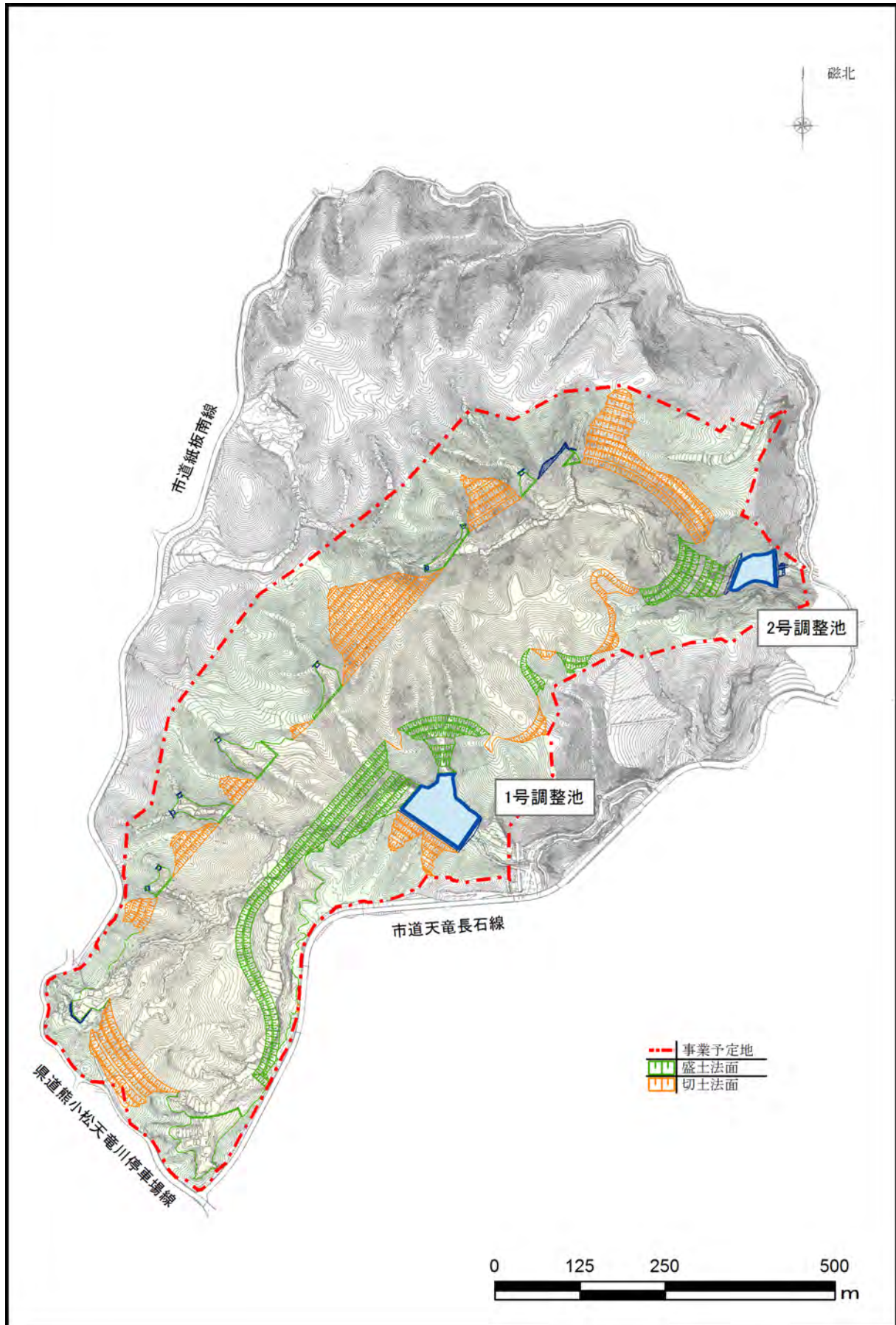


図 3.2.6 調整池の位置

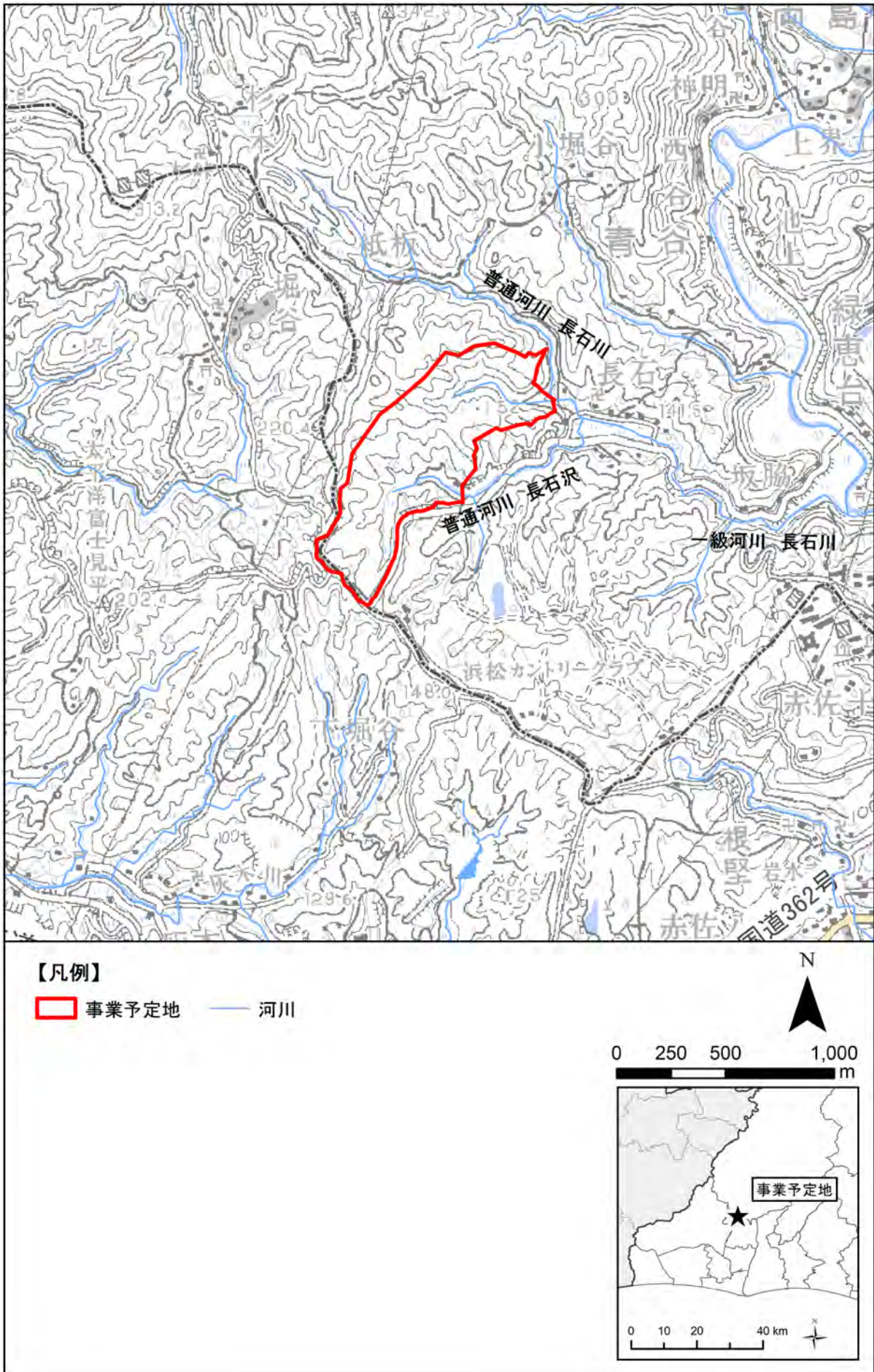


図 3.2.7 周辺河川の位置

(7) エネルギー利用計画

エネルギー利用計画を表 3.2.10 に示す。

テストコースでは、走行車両用にガソリン及び軽油を使用する。

また、そのほかの施設では、電気を使用する計画である。

表 3.2.10 エネルギー利用計画

| 使用施設 | エネルギー種別 | 使用量 |
|---------------------------|------------------|--------------|
| テストコース（走行車両） | ガソリン | 2,000 L/月 |
| | 軽油 | 150 L/月 |
| 事務所 従業員駐車場（タイマー式照明設備）等 | 電気 （中部電力株式会社） | 33,000 kWh/月 |

(8) 廃棄物処理計画

廃棄物計画を表 3.2.11 に示す。

これらの廃棄物は専門業者に処理を委託し、適正に処理する。

表 3.2.11 廃棄物計画

| 分類 | 内容 | 発生量 |
|-----------|---|--------|
| 事業系一般廃棄物 | 紙類 | 25 t/年 |
| 特別管理産業廃棄物 | 引火性廃油（ガソリン、灯油、軽油） | |
| 産業廃棄物 | 廃プラスチック 廃油（エンジンオイル、ミッションオイル） 廃アルカリ（不凍液） 混合物（廃プラスチックと鉄・アルミの混合物） | |

(9) 緑化計画

緑地計画を表 3.2.12 に示す。

事業予定地のうち、造成を要さない範囲は、自然緑地として現状のまま残す計画である。また、建物周辺についても、植栽・張芝等によりできる限り緑化する。

緑地面積は合計 29.54ha となり、事業予定地（面積 53.52ha）全体の 55.19%を占める。

表 3.2.12 緑地計画

| 用途 | 面積 | 事業予定地全体（53.52ha） に占める割合 |
|------------|----------|----------------------------|
| 環境緑地（平場緑地） | 1.87 ha | — |
| 斜面緑地（切土法面） | 6.38 ha | — |
| 斜面緑地（盛土法面） | 4.61 ha | — |
| 自然緑地（残置森林） | 16.68 ha | — |
| 合計 | 29.54 ha | 55.19% |

3.2.7 工事に関する事項

(1) 工事工程

工事工程を表 3.2.13 に示す。

工事は、平成 31 年から平成 41 年までを予定している。なお、部分供用は、平成 37 年からを予定している。

表 3.2.13 工事工程

| 種 別 | 平成 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|------|------|------|--|
| | 27 年 | 28 年 | 29 年 | 30 年 | 31 年 | 32 年 | 33 年 | 34 年 | 35 年 | 36 年 | 37 年 | 38 年 | 39 年 | 40 年 | 41 年 | |
| | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | |
| 工 事 | | | | | | ■ | | | | | | | | | | |
| 供 用 | | | | | | | | | | | | ●————→ | | | | |

(2) 工事概要

ア 防災工事

事業区域内の大規模な伐採工事、土工事に先立ち、2基の防災調整池工事を先行する。調整池工事では、堤体構造物となるコンクリート堰堤建設が主な工種となる。

イ 土工事

大型重機（ブルドーザ、バックホウ）にて、事業予定地内の切土、盛土工事を行う。

切土量、盛土量ともに約 200 万 m³の土工量を計画している。造成地内で土工量収支バランスを図り、運土は場内で完結させ場外への搬出は避ける計画である。

ウ コース建設工事

基盤造成工事が完了したのち、テストコースを建設する。

主要工種は路盤工事、アスファルト舗装工事、整備室兼事務所棟建築工事となる。

(3) 工事用道路

工事中の車両通行ルートを図 3.2.8 に示す。

工事車両は、事業予定地より県道熊小松天竜川停車場線を経由して国道 362 号バイパスへ至り、東方へは一般国道 362 号バイパス及び一般国道 362 号を、西方へは今後建設される予定の一般国道 362 号バイパスを走行する計画である。

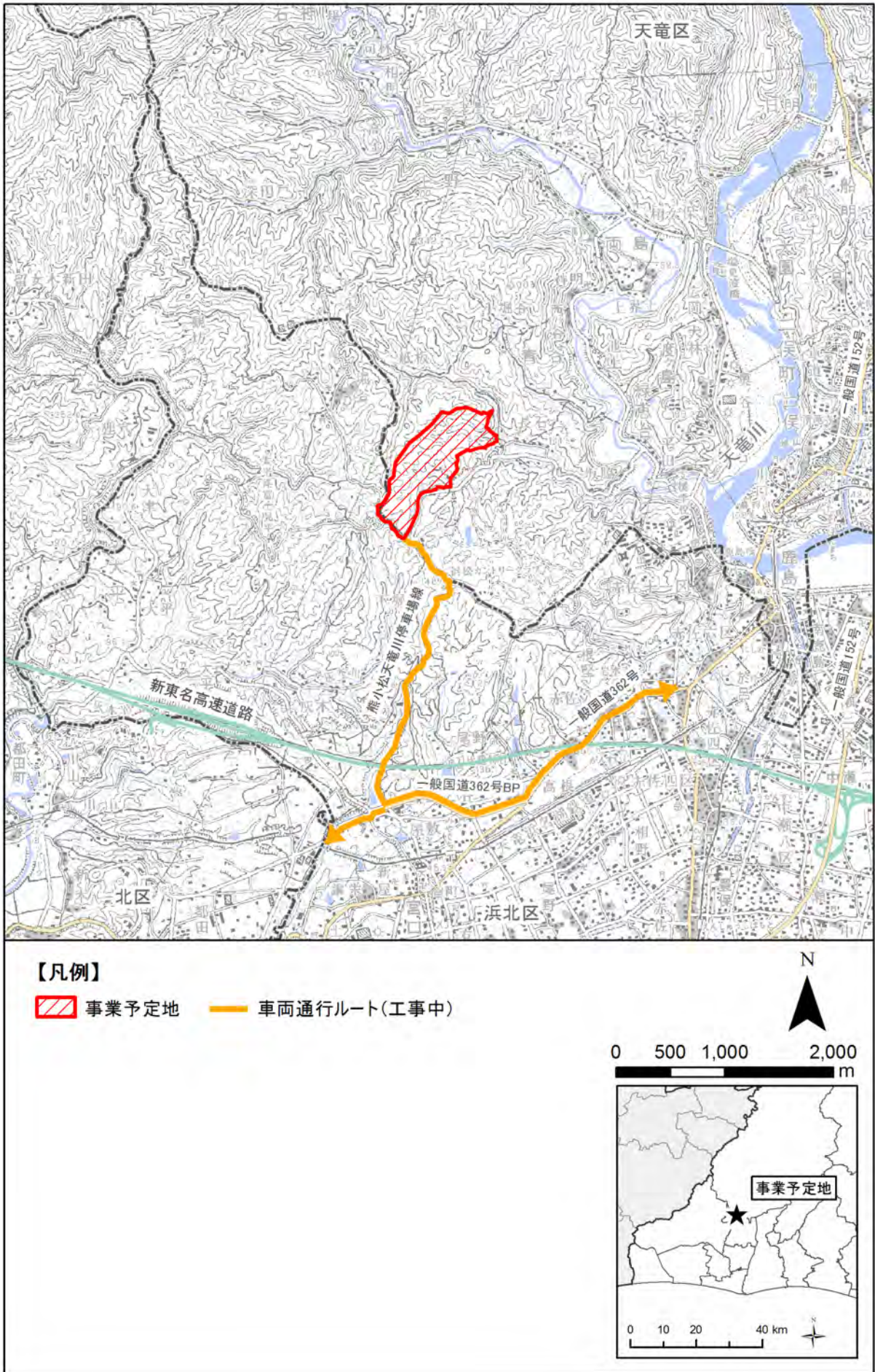


図 3.2.8 工事中の車両通行ルート